

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190800670		
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム北越谷		
所在地	埼玉県越谷市弥栄町2-511-1		
自己評価作成日	令和2年11月4日	評価結果市町村受理日	令和3年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>温かみのある家庭的な雰囲気。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>りを大切にされている。また、「家庭的でゆったりと安らげる環境」、「自分でできる喜び」、「季節感のある暮らし」が実現できるように取り組まれ、職員の工夫でできるだけ外出の機会を持たれたり、髪染めや化粧、畑仕事などを実践され、こもりがちな日々に潤いをもたらせている。</p> <p>・運営推進会議は、コロナ禍から現在は書面開催となっているが、定期的開催され、利用者の様子や事業所の取り組み状況を報告され、認知症を理解していただくことに取り組まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示しコロナ渦でなければ送り時唱和行っている、また頭に入れておくように入職時のオリエンテーションで説明を行っている。	できることを継続し、自分で行える喜びを感じていただくために職員は、自身の行動が理念に沿っているか意識しながら支援をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の状況の中で行えていない。	近隣の方とは、敷地内や隣接の公園で挨拶を交わされたり、自治会長を通じて、地域に「はなまる通信」を紹介していただくなど、積極的に事業所を知っていただく取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3月開所にて日が浅いこと、またコロナ渦において行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	越谷市介護保険課に確認相談の結果、運営推進会議は議事録作成し、包括、自治会長、介護保険課へ議事録作成し郵送を行っている。	コロナ禍から現在は書面開催となっているが、定期的に関催され、認知症を周知していくことをメインに事業所の取り組み状況が報告されている。また、今後はラインを活用し内容をより深いものにしたいと検討をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ渦もあり行えていない。	市からは感染症対策や様々な研修案内をいただいている。また、運営推進会議の議事録を持参し、事業所の現状を伝えられたり、制度上の助言をいただくなど相互交流が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を適宜開催し身体拘束しないよう取り組んでいる、玄関の施錠等はセキュリティにおいて行っており身体拘束の意味合いとは違う。	自宅と同じようにできるだけ自由に過ごしていただくために、外出したい利用者には職員と一緒に散歩をされたり、薬に頼ることも拘束ととらえ、医師との話し合いが持たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社の資料による研修や適宜会議の場などで伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こちらから成年後見人のお話を利用者様に する機会がない、またそのような関係者と今 の所接点がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけて丁寧に説明行っ ており不明な点が無いよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者ご家族様から出たご意見は適宜職 員に伝え改善を促したり各フロア会議の場 で議題にあげ運営に反映させている。	利用者とは雑談の中で、家族からは訪問や テレビ電話などで聴き取られ、食事や髪染め などに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	社会的に可能なことやホームの運営方針に 沿ったものであれば反映させるように動いて いる。	日頃から活発な意見交換が行われ、ちぎり 絵や転倒リスクを減らすために運動量が多く なる企画を考え、DVDを見ながら体操などが 取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	働きやすい職場環境になるように職員から の要望は出来る限り早急に対応するよう にしている。 上期下期の評価も本社に適正に上げてい る。 給与水準は私が上げられるものではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	可能な限り研修には参加して頂くようにし ているが研修自体コロナ渦もあり中止が多い のが現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	今のコロナ渦の情勢においてそのような機 会は特にありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多く対話を重ね信頼関係を利用者様、利用者ご家族様に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にお尋ねしサービスに反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様にお困りごとや、どのような生活を送って欲しいか必ず聴き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	適宜利用者様と雑談をしたりし良好な関係性を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で面会等に制限がある状態が開所後すぐに始まった為、すべてのご家族様に職員との関係性を作ることがなかなか進んでいない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人に会うことが、コロナ渦の中では難しく行えていない。	利用者の馴染みの場所や生まれ育った土地を調べ、YouTubeで流したり、馴染みのたい焼きや洋菓子を購入されるほか、入所以前から利用していた訪問マッサージを継続利用されている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のことを把握しながら利用者様同士の橋渡しを行い関わり合いが行えるよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば適宜対応行ったりしているがこちら側から連絡するのは相手方様のことも考えて出来ないことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望をなるべく体現できるように考えているが体現が難しいことも多い。	表情や行動から思いを推測されているが、自分の思いを伝えづらい利用者には、二者択一や選択肢を示し確認されている。また、行えそうなものを見つけ支援されたことで、外に目を向けることができるようになり、薬が減るなど効果ももたらされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人と他の利用者様と雑談の中でお尋ねしたりして把握に努めたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適宜職員と話し合ったり会議の場でカンファレンスを行ったりし職員へ周知活動を行ったりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とお話したり職員からの聴き取り、本人様と会話をしたりし介護計画の作成を行っている。	統一した介護が提供できるようにケア方法が話し合われ、楽しく過ごしたい、笑顔でいてほしい、活動的に過ごしてほしいなど聴き取られた要望とともに具体的な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画更新前や変化がありそうなき職員への聴き取りを行ったり介護記録を確認し計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望、散歩であったりアレが食べたいなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について何を指しているのかがよくわかりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に訪問医師の説明を行い、訪問医師担当相談員にてご説明を行って頂いている。	他科受診をする際も、日頃から訪問医と連携が取られており、情報の漏れがないように予め相談員とメールでやり取りをされるなど、双方で情報が共有され、安心した医療が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来られた際は利用者の状況を説明し見て欲しい所や相談をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様を通じて適宜情報の共有を行ったり、病院側が可能であれば退院前のカンファレンスを行ってもらっている。退院時には往診医に情報をお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、重度化した方や看取りの方が派生していないが、契約時看取りについての説明を行っている。	まだ看取りの経験はないが、家族からは看取り対応があるので安心との声が聞かれている。発生した場合は、医療関係者と連携し本人・家族の不安が解消できるように取り組んでいくことが話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練はまだ行っていない会社側からのそういったお話を(研修など)聞いていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所などの説明や避難訓練及び事務所に防災情報を掲示している。	地域から機材を借り、避難訓練が実施されている。2階の利用者の避難方法やスプリンクラーによる寒さ対策等課題が見えているが、災害時には住民を受け入れることができるように、自治会消防団への協力要請も検討されている。	災害はいつ起こるかわからず、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、自治会や消防団と協議され、地域との連携が進められることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様にあった声掛けを行っている又、会議の場で職員にも適宜伝えている。	理念に沿い、一人一人に適した言葉がけに努め、不快にならないことを心掛けている。また、フロアでの会話には個人が特定されないように配慮をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく利用者様に選択して頂けるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	適宜会議の場で伝えているが行わない職員もいる、適宜指導行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の体調だったり好みだったりするような服の選択や自身が着たい物を許容できる範囲でおこなって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の有する能力によって適宜家事等お手伝いをして頂いている。	献立は毎日、利用者からの要望を聞き取られながら作られている。利用者には野菜を切る、盛り付ける、テーブル拭きなどできることを行っていたり、誕生日のケーキや焼きそばなども一緒に作られ喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない方には水分を促したり食が進まない人にも声掛け行いケアを行っている、摂取量の記録も行っている、飲みたい物や食べたい物の要望も伺っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア行っている、夜間は義歯の方は洗浄消毒も行っている、又訪問歯科医師様にアドバイスや計画書頂いてケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリに変更しトイレにての排泄を行って頂いたり便秘の方においては適宜排便コントロールを都度実施している。	「立位が取ればトイレ」を実現するために、タブレットに排泄状況を入力し、職員誰もが同じ方法で介助ができるよう取り組まれた結果、退院時、オムツだった利用者がリハビリパンツになるなどの事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取、医師にも相談し便秘の改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めているが、本人が拒否した場合など無理に進めず対応している。	入浴日は決められているが、毎日入ることも可能で、利用者の楽しみの一つになっている。浴槽は可動式で介助しやすく、ゆず湯、しょうぶ湯等で楽しめることもあるが、よりリラックスしていただくためにアロマオイルを使うことを検討されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい希望がある場合休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時やセット時のダブルチェックやお薬の説明がすぐ見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人いは歌をお勧めしたり、作業が好きな方には作業を行って頂いたりと強制せずに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦での人混みや遠出は控えているが、近隣の散歩や外気浴などは適宜実施している。	外気に触れる機会を大切にされ、敷地内の畑を耕したり、ベンチで外気浴、また、少人数で散歩やドライブなどが実践されている。日々、理念の「季節感のある暮らしの実現」を心にとめ外出支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の決まりもあり金銭の持ち込みは禁止となっている、又認知症の症状によってはお金によるトラブルの可能性もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にお電話をしてお話してもらったりはご家族様が対応できる時に確認し行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気やフロアを明るくし又適宜温度の調整を利用者様の要望によって行っている。	リビングは日当たりがよく、職員と一緒に作成された布製のカレンダーや創作品が飾られている。温かみがあり、利用者が気持ちよく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士フロアで雑談したり時には居室にておしゃべりを楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に使い慣れた物等持ってきてもらい、本人の動きを考慮した居室の物の配置を行っている。	馴染みの品を持ち込まれ、家具の配置も利用者と相談し、自分の部屋として落ち着ける雰囲気が作られている。フロアに近い居室は重度化に対応したベッドが設置され、いつまでも安心して暮らせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自由に動けるような状態になっている。		

(別紙4(2))

事業所名: はなまるホーム北越谷

作成日: 令和 3年 2月 17日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害に対する避難訓練や備蓄など行っており市役所の方に電話にて災害時の避難等の確認は行ったが、地域(自治会)の協力体制や災害時の流れなどコロナ禍もあり話し合いができていない。	災害時入居者様や職員が安全に対応できるように地域の方と連携や確認を行う。	コロナ禍の終息が前提であるが、運営推進会議の席や、その他で時間を設け、自治会の消防団の方との話し合いの場を作り、災害時の流れや連携体制をどのようにご協力いただけるか、また施設として地域の方に何ができるか話し合う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。